

27年漁期 まあじ漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	24年	25年	26年	27年	漁獲シナリオ (管理基準)	24年	25年	26年	27年 (案)	
まあじ	【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持を基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。											【27年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、漁獲シナリオ③の「親魚量の維持(太平洋系群2.74万トン、対馬暖流系群20.3万トン)」とし、対馬暖流系群については、20.3万トンから韓国の直近5年平均の漁獲量1.8万トンを控除した18.5万トンを日本EEZの値とし、これらの合計値21.24万トンをTAC数量とする。	
	太平洋	中位	横ばい	2.1	2.0	1.82	2.74	親魚量の維持(③)					
	対馬暖流	中位	横ばい	22.3 (20.5)	21.8 (18.4)	24.0 (20.8)	20.3 (18.5)	親魚量の維持(③)					
合計			24.4 (22.6)	23.8 (20.4)	25.82 (22.62)	23.04 (21.24)		22.6	21.4	22.62	21.24		

注1) 24年のABClimit欄は再評価後の数量。24年及び25年のTAC欄は期中改訂後の数量。

注2) 下段()書きについては、日本EEZの値。26年までは全漁獲量に対する日本EEZの漁獲割合から算出。27年は韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量) の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2015年 漁獲量 (万トン)	評価		2013年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に 2013年親魚 量を維持す る確率	5年後にBli mitを維持 する確率		
太平洋系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit *① 親魚量の増大(F20%SPR)	2.26	99%	100%	2.9万トン	親魚量 2.4万トン
				*② 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	2.62	57%	82%		
				*③ 親魚量の維持(Fmed)	2.74	29%	51%		
対馬暖流系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit *① 資源量の増大(F30%SPR)	15.0	99%	100%	20万トン	親魚量 15万トン
				*② 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	18.2	88%	97%		
				*③ 親魚量の維持(Fmed)	20.3	60%	80%		

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。

近年の韓国のまあじ漁獲実績

年(平成)	(単位:千トン)
15年	20
16年	25
17年	43
18年	23
19年	19
20年	23
21年	22
22年	19
23年	19
24年	17
25年	15
直近5年平均	18
《対馬暖流系群》	
平成27年ABC	203
我が国EEZ分	185

注1. 赤の数字は直近5年間の最大漁獲量

注2. 青の数字は直近5年間の最小漁獲量

27年漁期 まいわし漁獲可能量(TAC)案について

(単位: 万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	24年	25年	26年	27年	漁獲シナリオ (管理基準)	24年	25年	26年	27年 (案)	
まいわし	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持若しくは増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p>											<p>【27年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、漁獲シナリオ②の「親魚量の維持(太平洋系群28.3万トン、対馬暖流系群14.1万トン)」とし、これらの合計値に基づく42.4万トンをTAC数量とする。</p>	
	太平洋	中位	増加	28.8	29.2	31.0	28.3	親魚量の維持(②)					
	対馬暖流	中位	増加	3.8	9.6	11.9	14.1	親魚量の維持(③)					
合 計				32.6	38.8	42.9	42.4		32.6	38.8	42.9	42.4	

注) 24年及び25年のABClimit欄は再評価後の数量、TAC欄は期中改定後の数量。

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2015年 漁獲量 (万トン)	評価		2013年 親魚量	Blimit	Bban
	水準	動向				5年後に 2013年親魚 量を維持す る確率	5年後にBli mitを維持 する確率			
太平洋系群	中位	増加	>Blim	ABClimit *① 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	18.3	86%	100%	48.4万トン	親魚量 22.1万トン	資源量 2.2万トン
				*② 親魚量の維持(Fmed)	28.3	36%	78%			
対馬暖流系群	中位	増加	>Blim	ABClimit *① 親魚量の増大(F40%SPR)	7.3	99%	100%	13.1万トン	親魚量 10万トン	資源量 0.5万トン
				*② 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	8.8	96%	98%			
				*③ 親魚量の維持(Fmed)	14.1	50%	64%			

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。